

# 英文の後半の読み方

問題 19

文頭③ Truly autonomous cars <sup>説明④</sup> that do all the work are still at least a decade away from transporting people around town.

×	Truly autonomous cars	that do all the work	are ...
イントロ (いつに、どこで)	主人公 (主語、S)	主人公の説明	行動 (動詞、V)

(be動詞、一般動詞、受身)

**前半の訳** 「すべての仕事をする真の自律型自動車は、 = / ...」

これも実際の授業ではほぼ全員できていました。

先頭の Truly autonomous cars は特に前置詞も付いていないし、主人公と考えてみます。そしてその直後に that が。これは説明文を付けたぞというサインでした。「すべての仕事をする真の自律型自動車」ですね。

それは現在のように「人々を街のあちこちに輸送すること」(transporting people around town) から少なくとも十年離れたところにいる、というのが直訳。要は、少なくとも十年はかかるだろうという記事でした。

\*

お疲れさまでした！

どうでしたか？ 分類は？ 訳は？ 満点の人はすごい！

● 自己採点結果 ●

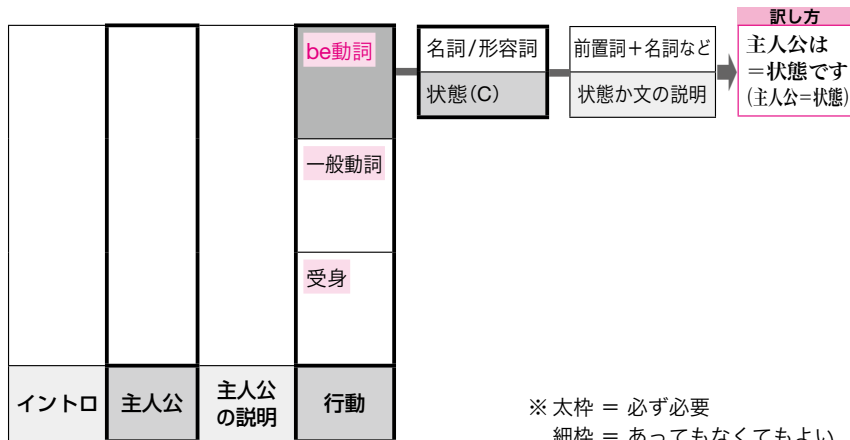
19問中 (190点中) ( ) 問正解

( ) 点

本書は、前半の読み方を重視していますが、後半が気になる人もいると思うので、まとめて解説しておきます。  
第3章で後半の設計図の“簡易版”はすでに解説しています (p.166) ので、そこで説明していなかったパターンを説明しておきたいと思えます。

## §1. be動詞とbe動詞系

「行動部分」は、be動詞、一般動詞、受身の3つしかないと言いました。(p.93)  
 文の後半は、この3つに分かれるところから始まるのでしたね。(pp.166-180)  
 まず、be動詞の後ろはこんな感じでした。



例えば、ここに2つ文があります。

She is a teacher. — ①

She became a teacher. — ②

①はbe動詞を使った文なので、後ろは「状態(C)」で、「主人公は=状態です」と訳せばいいですね。

She is a teacher.

主人公 V 状態(C)

「彼女は先生です」

では②は？

became は一見「一般動詞」に見えますが、実はこれも **be動詞の仲間**なのです。  
 なので、be動詞の箱に入れてください。  
 つまり、後ろはやはり「状態(C)」ですね。

She became a teacher.

主人公 V 状態(C)

「彼女 = 先生になった」

このようにbe動詞の仲間というのがあり、私は「**be動詞系**」と呼んでいます。  
 重要なのは、「**主人公 = 状態(C)**」というイコール関係は**変わっていない**ということ。

②の文も「She = teacher」というイコール関係は変わっていないですね。

それが **be動詞の仲間になれる「条件」**なのです。

他には seem や look や remain などが典型です。

- 主人公 look 状態  
 「主人公は = 状態に見える」
- 主人公 remain 状態  
 「主人公は = 状態のまま」 (※seemについてはp.280を参照のこと)

イコール関係は変わっていないで、「主人公は=状態です」の「です」の部分  
 がいろいろ変わっているだけです。

**イコール関係のニュアンスが少しずつ変わっていくだけ**。そこがポイントです。

### 後半の読み方 ①

**be動詞系 (be動詞の仲間: become, look, remain など) は、「です」のニュアンスが変わるだけで、イコール関係は変わっていない!**

「主人公は = 状態です」



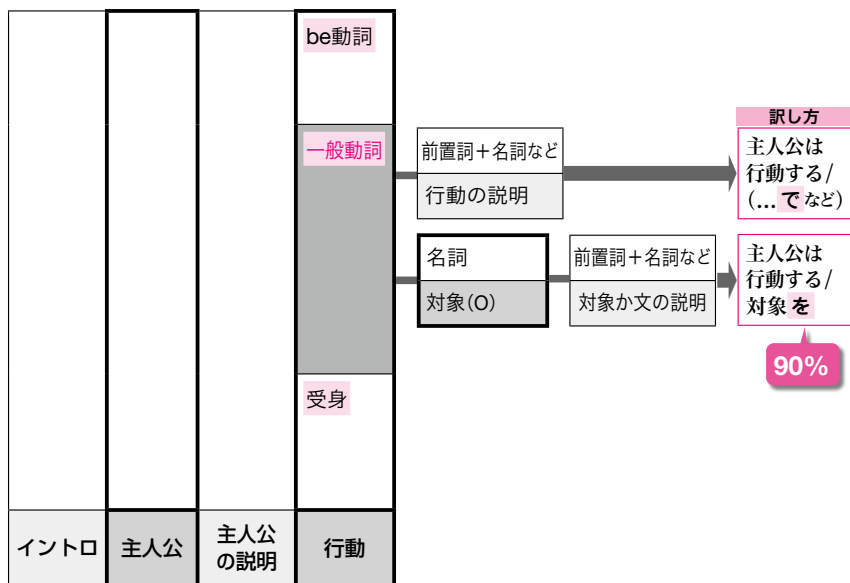
「になった」「に見える」「のまま」など

## §2. 「対象 (O)」の後ろは本当は3つ

続いて「一般動詞」の後ろに行きましょう。これも完全版を解説しておきます。「簡易版」(p.166)ではこうなっていました。

一般動詞の後ろは、基本は名詞があるはずで、これは動詞の「対象 (目的語、O)」なので、「を」を付けて訳せばよい。

あるいは、たまに「前置詞+名詞」が来るときは、行動部分の説明、つまり、「いつ、どこで」などの説明になるのです。覚えていますか？



そして、「対象 (目的語、O)」の後ろは「対象か文の説明 (前置詞+名詞など)」と言いましたが、実は細かく言うと、対象 (目的語、O) の後ろは、あと2つあります。

その2つを解説しておきます。

**SVOO** パターンと **SVOC** パターンです。

### (1) SVOOパターン

She gave me a chocolate.

例えば、この文ですが、一般動詞の後ろに **me** があり、さらに後ろに **a chocolate** という名詞が来ていますね。

このように**名詞が2つ並んでいる**ケースです。訳はわかりますね。

She gave me a chocolate.

「彼女は与えた / 私に、チョコレート**を**」

ですね。

つまり、目的語 (対象、O) の後に、また**2つ目の目的語 (対象、O)** が出てくるというわけで、一般的には **SVOO** パターンと言われています。

「対象2」という感じで、

「主人公は行動する / 対象に 対象2**を**」

といった訳になります。

このパターンを追加しておきます。

